

総務厚生常任委員会

平成26年10月14日～16日
鹿兒島県鹿屋市・志布志市
委員長 小野 覺

鹿兒島県鹿屋市柳谷集落

「行政に頼らない、感動の地域づくり」の理念のもと、集落活動に取り組んでおられた。柳谷集落の人口は300人、高齢化比率は40%超で、存続が危惧された時期もあったそう。

「地域を再生するためには行政や補助金に頼っていないは駄目だ、そこには感動がない」とリーダーの豊重哲郎氏。その理念のもと、土



集落についての説明を受ける

着菌を活用した悪臭除去などの環境対策、独居老人宅への緊急通報装置の設置、財源確保のためのサツマイモ生産など、地区民全員が参加できる事業を行っておられる。また、空き家を改修し、芸術家を呼び込み、画家、陶芸家、写真家など7人が移住し活動しているとのこと。

「台風通過後、最初に通れる道は柳谷の道路だと言われる。それは住民全員で道路掃除をするからです」と豊重さんが誇らしく語られた。



土着菌による堆肥製造施設

鹿兒島県志布志市伊崎田保育園

「すべての子供が天才である。ダメな子なんて一人もない」
「すべての子供が天命をうけてこの世に生まれてきた。その天命を最大限に発揮させたい」の理念のもと、卒園までに全員が逆立ち歩きができ、5歳児で漢字が読み書きできるというユニークな「ヨコミネ式」子育てを実践されている。2歳児までは普通の保育園、幼稚園と同じで、3歳児から「自立」に向けての教育を始められている。



自学自習の情景



合奏を聴いて感動

「ヨコミネ式教育法の究極の目的は自立だ。子どものやる気を起こし、子どもの持つ素晴らしい才能を開花させる。読み書き・計算・体操・音楽を通して、『学ぶ力、体力、心の力』をつけさせ、生まれ持っている可能性を最大限引き出す」と横峯理事長。

全員で計算問題など自学自習に取り組む姿、逆立ち歩き、背丈よりも高い跳び箱を軽々と跳ぶ、音楽の合奏など驚きだった。

教育経済常任委員会

平成26年10月15日～17日
高知県梼原町
委員長 熊谷 兼樹

自然エネルギー（太陽光・風力・水・木質バイオマス等）で、町内で使う電気をまかなう。梼原森林組合を中心に、大規模な木質バイオマス団地を形成し、地域循環型産業の振興と環境教育を推進している。また、本町とは森林セラピーへの取り組みで交流している。

目的
木質バイオマス事業の現状と今後の展望



ストックヤードにあふれる木材

○木質ペレットの現状

日本各地で、木質チップを燃料に使う発電施設が建設されている。これまで無償であった林地残材などが高騰、製造、輸送コストも上昇し、消費を圧迫している。

○林道整備

梼原町の林道は、1ha当たり100m程度整備される。長期間利用する目的でしっかりとした整備と管理を行っているため、主要な公共事業になつていない。

○林業従事者

林業不況や高齢化によって、従事者が激減しているため、建設業者の林業参入を支援（高性能林業機械の導入・林道整備）している。



地元産材を使った役場庁舎

研修で得たこと

木質バイオマス事業

本町でも木質バイオマス事業がスタートする。燃焼機器の価格、燃焼効率、燃料価格等しっかりとした事前調査が重要。

林道整備と木材の搬出

木質バイオマス発電所の建設によって木質資源（林地残材・BC級材・枝葉）の不足、価格の高騰が予測される。

また、林業従事者も、深刻な労働力不足の状況にあるので、建設事業者が林道工事と木材搬出をセットで請け負う仕組みが有効。

林業従事者の育成・確保

本町には、農林大学の林業科がある。町有林を演習フィールドとして提供し、林業後継者育成に寄与したらどうか。



おが粉生産施設



役場で説明を受けました